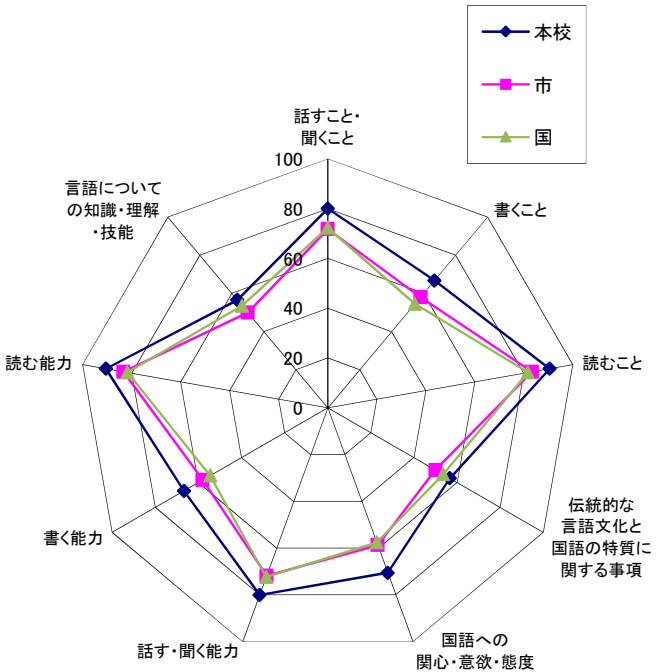


宇都宮市立東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.0	71.8	72.3
	書くこと	66.7	58.0	54.5
	読むこと	90.5	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.6	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	70.5	58.7	57.6
	話す・聞く能力	80.0	71.8	72.3
	書く能力	66.7	58.0	54.5
	読む能力	90.5	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	56.6	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国、市の平均を上回った。 ○「インタビューの様子」の文章で、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する」問題は、正答率が86.1%と高く、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問ができる児童が多いことが分かる。 ●1割の児童がすべての設問で正答できなかった。	国語科を中心に、様々な学習活動において話し合いの活動を多く取り入れる。その際、話し手の意図を捉え自分の考えと比較しながら聞いたり、自分の考えを明確にして話したりすることを引き続き指導していく。
書くこと	平均正答率は、国、市の平均を上回った。 ○「報告する文章において資料を用いた目的を選択する」「情報を相手に分かりやすく伝えるための文章の書き方の工夫として適切なものを選択する」問題では、正答率がどちらも80.6%と高い。 ●「2つの文章から分かったことを、言葉や文を取り上げてまとめて書く」問題では、正答率は38.9%であった。	国語科だけでなく、各教科や総合的な学習の時間などにおいて書く活動を重視し、計画的に場を設定していく。また、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしながらかくことができるようにするために、文章の構成、効果的な表現の仕方について指導していく。
読むこと	平均正答率は、国、市の平均を上回った。 ○「知りたいことを調べるためにどこを読んだらいいか選択する」「疑問に思ったことに対する答えを選択する」問題では、正答率がどちらも91.7%と高く、自分の考えを明確にしながらか目的に応じて文章を読んだり、文章全体を概観して効果的に読むことができることが分かった。 ●「疑問に対する答えになるように書く」問題では、国の平均を上回ってはいるものの86.1%であった。	説明的な文章や物語文に触れる機会を多く設けるために、学校図書館司書や司書教諭と連携を図り、図書室を有効に利用していく。また、自分の考えを明確にしながらか読むことができるようにするために、自分の考えや経験と比べ共通点や相違点などを見つけ表現する活動も取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、国、市の平均を上回った。 ○「1つの文章を接続詞「そこで」を使って2文に分けて書き直す」問題では、国の正答率を18.9ポイント上回り、66.7%だった。 ●漢字の書き取りの問題では、国の平均を下回り、正答率が13.9%のものがあった。	語句の役割や語句相互の関係に気を付けながらか文章を書けるよう引き続き指導していく。全学年の漢字を正しく書いたり読んだりすることができるよう、漢字ドリルやプリントを活用し定着を図る。